

2010年5月から2015年10月までの間に中央病院で卵巣がんの手術が施行され、病理診断で卵巣明細胞がんと診断された患者さんに関する研究概要の一般公開

研究課題名 卵巣明細胞癌：画像所見の典型例と非典型例では臨床的な違いは存在するのか？

研究対象：2010年5月から2015年10月までの間に中央病院で卵巣がんの手術が施行され、病理診断で明細胞がんと診断された方を対象とします。

研究の概要：卵巣明細胞がんは日本では欧米に比べて頻度が高く、日本では珍しくない腫瘍です。明細胞がんの中にも遺伝子レベルの違いや、組織的な違いにより臨床的に異なるグループは存在するという報告もあります。病理的な違いは画像に反映されることが多いため、今回、MRI画像での形態的な違いによって臨床的な違いがあるか否かを調べます。

研究の意義：術前に卵巣明細胞がんであるということを画像で診断することは治療方法の選択にとって重要であることはもちろんですが、さらにその中で、形態の違いによっても臨床的な振る舞いがことなることがわかれば、個々の腫瘍に合った治療選択が可能となる可能性があるのではないかと考えます。

目的：卵巣明細胞がんの、形態的な違いにより臨床的な違いが存在するのか否かを調べます。

方法：研究対象となる方々のカルテを参照して調べます。

今回はカルテの記述や病理診断、画像を再度見直すのみですので、対象となる方に新たな検査を行うことはありません。

個人情報保護に関する配慮：本研究ではカルテ番号を使用しますが、個人情報は連結可能匿名化し、個人情報の管理には十分配慮します。また、個人が特定されるような情報は一切公表しません。

この研究の対象者に該当する方で、ご自分の臨床情報、検査結果、病理結果、画像情報を使用しないで欲しいというご希望があれば、研究責任者の放射線診断科 医員 眞鍋知子までご連絡ください。

研究代表者：国立がん研究センター中央病院放射線診断科 眞鍋知子

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒104-0045

国立がん研究センター中央病院 放射線診断科 眞鍋知子

TEL03-3542-2511(内線 5409) FAX 03-3547-5989